

地方を、人生のステージにする。

参加費無料！

地域おこし協力隊× ITリスキリング

定員
150名
多数の場合抽選



2026年
1月23日 金
18:00～19:30

開場 17:45

地域で取り組みながら力をつける。
地方をステージにした、これからの選択肢。

地方をステージにして、働き方や暮らし方を考えたいと感じている若者は、いま、確実に増えています。

一方で地方には、これまでの延長線ではない、次の時代を見据えた移住者との新しい関わり方を模索する地域が生まれ始めています。

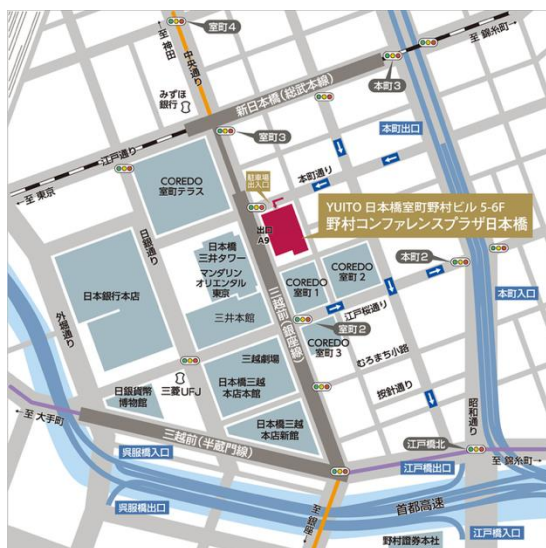
本イベントでは、そうした自治体の取り組みを紹介しながら、地域おこし協力隊を入口に、地方で続けられる働き方・暮らし方をつくる仕組みへの参加者募集をスタートします。

「地方と人材の未来を語る」

場所

野村コンファレンスプラザ日本橋（6F大ホール）

東京都中央区日本橋室町2丁目4番3号 YUITO 日本橋室町野村ビル



- 東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」駅（A9出口）徒歩1分
- JR総武本線「新日本橋」駅 徒歩3分（駅地下道よりお越しいただけます）
- 東京メトロ銀座線・東西線「日本橋」駅（B12出口）徒歩7分
- JR各線「神田」駅（南口）徒歩7分
- JR各線「東京」駅（日本橋口）徒歩10分

プログラム

1. クロストーク

「地方と人材の未来を語る」

地域おこし協力隊を入口に、その先の働き方・暮らし方をどう描くか。制度の背景と現場の実情を踏まえ、各地域が目指す未来と、そこに向けた人材との関わり方について語ります。

登壇者（予定）

- 脇川 善行氏（栗島浦村長・新潟県）
- 植田 壮一郎氏（室戸市長・高知県）
- 塚原 隆昭氏（飯南町長・島根県）
- 糸原 保氏（奥出雲町長・島根県）
- 佐藤 啓太郎氏（地方創生塾 持続可能な地方創生モデル構築検討会議 座長／元 総務省大臣官房審議官〔地域活性化担当〕・地域自立応援課長・過疎対策室長）
- 仲谷 幸氏（中国経済産業局・企画調査課）
- 仁藤 敬介氏（LULL株式会社・代表取締役）
- 赤藤 昭彦氏（株式会社ARKカンパニー・代表取締役）
- 兼本 潔（一般社団法人離島百貨店 理事）

ファシリテーター

- 青山 富寿生（一般社団法人 離島百貨店 代表理事）

2. 質疑応答

お問い合わせ・
参加申し込み

お問い合わせ

一般社団法人離島百貨店

03-6261-7911 info@rito-hyakka.jp

参加申し込み（1/15 締切り）

離島百科



主催

地方創生塾（地方と都市をつなぐ、これからの働き方・暮らし方を全国で展開するプラットフォーム）

一般社団法人離島百貨店、NPO法人「日本で最も美しい村」連合

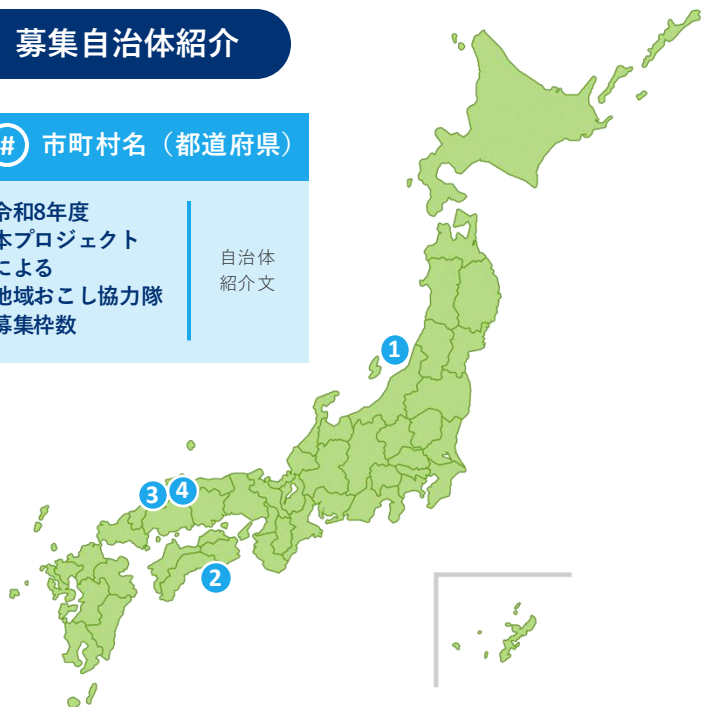


募集自治体紹介

市町村名（都道府県）

令和8年度
本プロジェクト
による
地域おこし協力隊
募集枠数

自治体
紹介文



① 粟島浦村（新潟県）

3～5名

粟島浦村は、日本海に浮かぶ人口約300人の島の村です。豊かな自然に囲まれ、人とのつながりを大切にする暮らしが、日々の営みとして受け継がれています。

② 室戸市（高知県）

20名

太平洋に面する室戸市は、海と深く関わりながら暮らしが営まれてきたまちです。水産物や農産物が身近にあり、自然環境の中で地域とのつながりを大切にした生活が見られます。

③ 飯南町（島根県）

10名

中国山地に位置する飯南町は、森と清流に囲まれた自然豊かなまちです。四季の変化を身近に感じながら、地域と関わり合い、自分のペースで暮らしや仕事に向き合える環境があります。

④ 奥出雲町（島根県）

4名

たたら製鉄の歴史を背景に、ものづくりと暮らしが結びついてきた。受け継がれる技や行事が今も生活の中に息づき、日常そのものが文化になる土地です。静かな里山で、時間を積み重ねる暮らしができます。

取り組みの仕組み

地域おこし協力隊での活動を、“地域での一時的な経験”にとどめず、人生のステージとして続いていくことを目指した取り組み設計です。

1～3年間での取り組み

地域の未来に向けたビジョン策定

特定地域づくり事業協同組合の整備

地域プロジェクト実行体制の構築

地域おこし協力隊として地域協力活動への参加

ITリスキリング（オフの時間を活用）

地域での暮らし・関係づくり

支援

その後の主な参加者の進路

参加者は地域おこし協力隊の任期後も自治体に残り、各種プロジェクトを実行

マルチワーカー

地域マネージメント

本イベントは、本取り組みに関心のある自治体関係者や、地域人材の活用を検討している企業の方の参加も可能です。

都市と地方をつなぐと、人も企業も社会も続いていく。
そして、日本はもっと強く、もっと楽しくなる

都市と地方は、これまで別々に語られてきました。

若者は地方に行きたいのに仕事がなく、企業は人材を求めているのに地方を活かせていない。社会の持続性が問われるいま、ここに“循環”を生み出すことこそ、日本の未来に必要な構造転換です。

都市と地方がつながると、人も企業も社会も続いていく。

仕事は地方に広がり、若者は豊かな体験の中で育ち、企業は成長しながら人材の未来を守る力を手に入れる。そこには、二拠点・多拠点の自由な暮らし方、新しい働き方、挑戦が生まれる楽しい社会が広がっています。

